

法律の効果の見込みと達成度について

平成 26 年度に国が整備した公共建築物では、三階建て以下の低層公共建築物(100 棟、合計延べ面積 11,769m)のうち、木造で整備を行った公共建築物は 32 棟、合計延べ面積 4,047 m²となっています。

また、木造建築以外で新築を行った際に内装に木材を使用した建物が 96 棟、既存の建物内部の木質化を行ったものが 76 棟となっています。

※参照:平成 26 年度 公共建築物における木材の利用の促進に向けた措置の実施状況の取りまとめ

平成 28 年2月 18 日 農林水産大臣、国土交通大臣

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/koukyou/pdf/160218-01.pdf>

※低層建築物を中心に、国レベルでは木造建築の積極的推進が進められています。

国の事例から

林野庁の嶺北森林管理署(高知県本山町)の建替事業にて、国の庁舎として初めてCLT(直交集成板)が本格的に活用されることが決まりました。平成 30 年の竣工を目標としています。



※CLTとは、Cross Laminated Timber(直交集成板)の略称で、ひき板(ラミナ)を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネルの事です。

(右写真参照、画像は林野庁 HP より引用)

日南町の事例

日南町の「道の駅田野川の郷にちなん」では、林業のまち日南町に相応しい建物づくりを目的として、地元の木材をふんだんに用い、現代建築と伝統建築が融合した設計となっています。

LVL(単層積層材)の加工は町内にある株式会社オロチで行いました。

道の駅での買い物の際には、売上より1商品につき1円が町内森林整備の為に寄付金となるカーボンオフセットシステムを道の駅としては全国で初めて導入し、注目を集めています。



米子木材市場動向

2016 年 6 月 8 日(水)・22 日(水)に開催された米子木材市場の市況

6/8 杉(4m 末口径 26 cm~30cm)11000(m³)/平均...1,070.371 m³ (出荷量)

6/22 杉(4m 末口径 26 cm~30cm)11000(m³)/平均...1,037.290 m³ (出荷量)

6/8 檜(4m 末口径 16 cm~18 cm)12000(m³) /平均...729.429 m³ (出荷量)

6/22 檜(4m 末口径 16 cm~18 cm)12000(m³) /平均...653.263 m³ (出荷量)

※檜の出荷量が、先月と比べて大きく伸びました。

※6/8 は決算原木市でした。